

いるま

第 34 号

題字 会長
令和元年9月1日
発行者
井 上 清

令和元年度を迎えて

会長 井上 清



令和元年と
いう記憶に残
る年度に、本
会は新入会員
四一名を迎え、

総会員七一九名の組織となった。

県下最大の支部である。各班のご
尽力により、本会の活性化が図ら
れた。更に本年度から「新入会員の
集い」を新規事業として企画した。

また、本年度は、埼玉県退職校
長会定期総会が入間支部担当とし
て開催された。「オール人間」の

もと、早くから実施委員会を立ち
上げ、各班に仕事を分担して担当
責任者が中心となり、微に入り細
にわたり準備を進めた。その結果、
県本部、会員からも多大な評価を
いただき、お礼を申し上げる。

さて、令和の新時代を迎えて、
平成の時代を振り返ると、教育等
を取り巻く情勢はいかがなものか

あつたか、考えてみたい。

まず、子どもを取り巻く環境で
あるが、少子化の現実、近所に
小・中学生を見なくなった。集団
での遊びもなくなり、スマホと
もに明け暮れる姿を目にする。

新教育課程の実施も近いが、個
を生かす教育は新しい時代に必要な

新時代の教育と縁について

入間地区小学校長会会長 宮崎 厚



時は令和と
なり、小学校
では、新学習
指導要領の全
面実施が半年

後に迫ってきました。各学校では、
その準備に向けて、様々な取り組
みが着々と進んでいるところです。

さて、柳生家訓には、「小才
は、縁に出会って縁に気付かず、

になるのだろう。平成の時代まで
に培われた「公德心」は、小学校
時代の教育の底辺にあつたとみる
が、いかがであろうか。平成時代
は自然災害が多く発生した時代で
もあつた。また、ボランティア活
動もよく目にした。「自発的無償行
為」と解説していた記事があつた。
更に、教職員の負担軽減の課題
である。お盆などに「学校閉庁日」
を設けている公立小中学校が六割
あると報じられていた。

われわれ退職校長も、地域の学
校と連携をもって支援していきたく
いと考える。更に、政治・経済・
医療・年金・福祉・子どもの虐待
など深刻な問題等に関心を持ち、
私たちも社会の変化を注視したい。

中才は、縁に気付いて縁を生かさ
ず、大才は、袖すり合うた縁をも
生かす」という言葉があります。

縁とは、人と人とのつながり、
関係を表します。縁を生かすため
には、人と人のかかわりをどのよ
うにするかが鍵となります。

しかし、現在では、AI（人工
知能）が活躍する時代となってい
ます。このAIの登場によって、

ますます人と人とのコミュニケー
ションが希薄になるのではないかと
懸念されています。

このような中、主体的・対話的
で深い学びの実現に向けた授業改
善の推進が求められています。特
に、対話的な学びは、友達や教師
と話し合い、学び合う中で人間関
係も磨かれていきます。

中央教育審議会答申で、対話的
な学びとは、「子供同士の協働、
教職員や地域の人との対話、先哲
の考えを手掛かりに考えること等
を通じ、自己の考えを広げ深める
学び」であると記されています。

このような対話的な学びを実現
していくためには、協働や対話、
先哲の考えなど、人と人のかか
わり、縁が肝要であると考えます。
AIがますます活躍する時代だか
らこそ、「袖すり合うた縁」を生
かし、人と人との絆を強め、縁で
結ばれた教育を実践していくこと
が必要となるでしょう。

結びに、入間地区校長会は、入
間地区退職校長会の諸先輩方との
縁を生かしながら、令和の時代も
発展し続けていきます。今後とも
皆様のご支援、ご協力をよろしく
お願いいたします。

（川越市立新宿小学校）

令和元年度 定期総会

期日 5月10日(金) 午後1時30分

会場 川越市「ラ・ボア・ラクテ」



令和元年度の定期総会は、改元に伴う大型連休の後、川越の地で肅々と行われた。

会員の出席は各地区からの代議員が九〇名。来賓として、西部教育事務所長浅沼俊英氏、川越市教育委員会教育長代理中野浩義氏、県退職校長会会長石田孝作氏、入間地区小学校校長会会長宮崎厚氏、同中学校長会会長小林一康氏のご臨席をいただいた。

国歌斉唱後、平成最後の年に亡くなられた二〇名の方に黙祷を捧げた。

はじめに、今年度七一九名の会員を擁する入間地区退職校長会井上会長から挨拶があった。

会の活性化のためには、新会員の加入が必須となる。新規事業として、新入会員の集いを企画、退職後も現職と変わらぬ多忙な日々を送る退職一年目の会員との交流の場を積極的に活用して欲しい。

また、地域とともにある学校作りのサポートとして、現場の校長との交流も一層深めていく必要があると力強い言葉があった。

続いて新会員の紹介では、新入会員四一名の代表として、鈴木朗氏の新風到来を思わせる挨拶があった。

総会の議事進行については、川

越班の嶋崎、秋山両氏が恙なく勤め、議事一切を総会要項の原案通りにすべて可決承認された。

第四号議案、役員選出の件では、阿部芳昭選考委員長から小林誠副会長の退任、鈴木文治副会長の急逝に伴い、新副会長として比留間英雄氏、大川戸浩氏が選出され、拍手をもって可決された。

来賓祝辞では、浅沼俊英所長、中野浩義学校教育部長から県や管内及び川越市の施策や教育課題、また、その対応策等の話を伺い研修の機会を得た。石田孝作県会長からは、新会員一九〇名を迎え、県内の総会員数は三七四八名となり、会員名簿を作成する予定とのこと。さらに、県退職校長会ホームページの閲覧案内もあった。

終盤に、埼玉県歌を高らかに斉唱し、令和元年度の定期総会が終了した。

総会後の新会員歓迎会、懇親会は、川越市長、川合善明氏のご臨席を得て、総勢七六名の賑やかな会となった。担当班の吉武寛氏の歓迎のことは皮切りに会場は、一気に文化交流の輪へと広がった。各地区の活動の様子、趣味等々の話題は尽きず、さわやかな余韻を残し、和やかなうちに懇親会は閉じられた。

研修・親睦旅行

国定公園南房総の旅



鋸山日本寺大仏広場にて

旅 程

参加者 26名

- 7/2(火)** 本川越・川越(関越道・海ほたる)→富津金谷IC→浜金谷港(昼食)→日本寺大仏(見学)
 富津金谷・富浦IC→崖観音(見学)→勝浦温泉「ホテル三日月」泊
- 7/3(水)** 道の港まるたけ(買物)→野島埼灯台(見学)→漁師料理たてやま(昼食)
 那古観音(見学)→館山道・アクアライン→海ほたる・首都高・関越道→川越・本川越

研修・親善旅行に初めて参加して 所沢 青木 章次

梅雨本格的な七月二日、私たちのバスは各班からの参加者二六人を乗せ、七時半に川越を出発した。目的地は千葉館山・勝浦方面。

初めての参加だったので様子が分からず不安もあったが、バスの中では、自己紹介やクイズ等の和やかな時間もあり直ぐにリラックスできた。昼食場所は東京湾を臨む浜金谷。空も明るくなってきた。

午後はまず鋸山の日本寺にある大仏を訪れた。高さ三一メートルの石像で堂々たる姿であった。次は館山市に移り、大福寺崖観音を

訪れた。船形山の中腹に浮かぶ朱塗りの観音堂で、地元住民の篤い信仰心を感じた。

宿泊地である勝浦三日月ホテルには三時過ぎに到着した。懇親会ではカラオケで盛り上がり、「蜩」と「夏は来ぬ」の叙情歌を全員で歌う時間もあり、会員相互の親睦が深まった。

部屋に戻り海を見ると、夜空に星が輝いていた。今回は県退職校長会総会をオール入間で担当した直後の旅行であったので、さらに会員相互の絆が強まったと感じた。

野島埼灯台と那古観音の旅

越生 原 邦宏

昨晩の和やかな宴会の余韻が残る中、二日目スタートした。

最初の訪問地である野島埼灯台に到着するまでの間、バスの中では、各班から活動の発表があった。

地域に開かれた活動や他団体と連携した活動、恒例の行事として継続している活動など、多くの事例が紹介された。この時ばかりは談笑は消え、真剣に耳を傾け、各発表に大きな拍手を送る姿が見られた。まさに、研修旅行の名にふさわしい発表会であった。

発表会が終わるとすぐに野島埼

灯台に到着した。この灯台は、房総半島の最南端に立つ八角形の美しい灯台である。塔に登ると、太平洋の大パノラマに目を奪われた。館山市内で海鮮料理に舌鼓を打ち、那古観音に向かった。那古観音は、境内に多宝塔や阿弥陀堂など歴史を感じさせる建物が多く、坂東三十三観音の結願所にふさわしい雰囲気であった。

安全運転に徹した運転手さん、話術の素晴らしいバスガイドさんに感謝し、二日間の楽しい旅を終えた。

会 員 の 声

鮎釣りに魅せられて

入間東部 島崎利雄

私が子どもの頃は、秩父市内の荒川でハヤ・ヤマベなどの魚釣りに熱中していました。

退職して十年。近年は、健康に気を付けながら老いてゆく身体に気合いを入れ、大好きな鮎釣りをしています。きっかけは、今から三十数年前、越生町教育委員会に勤務していた時に、鮎釣り名人に出会い魅せられたのです。

鮎の友釣りは循環の釣りと言われ、釣れないと切ないほど悲しく、掛かりアユとの格闘に打ち勝ち釣り上げた時には心を震わせる感動が得られます。

今年も富山・新潟・長野県等に釣行して、森昌子が歌う「悲しみ本線日本海」が「喜び河川日本海」になれば「至福の喜び」です。

「鮎釣りに魅せられた」島崎の夏はまだまだ元気である！。

素晴らしい人達との出会い

川越 齊木眞一

この三月定年を迎え、校長職を

無事に退くこととなった。教師の道を選んだのは、偶然、尊敬すべき魅力ある大人が中学校の恩師であつたからである。

幸運にも、新任教員として赴任した川越市立寺尾中学校一年目の学年主任が新井孝次先生、二年目以降は矢島秀一先生という、その後の教師としての生き方を決定づけていただけの先輩や、切磋琢磨し一生の友となつた同僚の先生方との出会いがあつたからこそ、今の自分があると言える。教職を生きがいとし、常に目の前の子ども々の事を考え、真剣に向き合つた日々は、立場が変わつても不変であつた。

これからは、少しでも子どもや学校の役に立つことを、身の丈に合った形でやっていければと思う。

「合気道」を楽しむ

日高 加藤孝義

「合気道」は、相手の力を利用して身を守る護身術です。

平成十三年大阪教育大付属池田小で外部からの侵入者による殺傷事件が起きました。その後行われた校内での防犯研修会の際に、以

前から稽古していた合気道が役に立ったことを思い出します。

退職した現在は、週二回五十数名の会員と共に汗を流し稽古に励んでいます。私の属する日高市合気道会は、会員の半数は小・中学生で、子ども達との稽古は一時間、その後一般会員と一時間半。生気みなぎる子ども達との稽古は、自然と熱が入ります。

〈無理なく安全に〉〈わかりやすくおもしろく〉を合い言葉に、心身の健康維持のための稽古を、子ども達と共に楽しんでいる今日この頃です。

地域・自然の中で

飯能 岡村光章

地域の住民として、自治会役員を四年、菩提寺総代を十年、神社の役員を二年引き受けました。在任中は、地域の諸先輩から温かい激励をいただきました。お陰様で無事に任期を全うすることができ、生まれ育った地域に、多少なりとも貢献できたと思っています。

役職を退いた今は、飯能市の山間部で四季の変化を肌で感じながら自然の素晴らしさを実感しています。春はワラビ、ミツバ採り、夏は茗荷、秋は柚子を収穫してい

ます。しかし、ここ数年は鹿の被害により、山菜等が大幅に減少しています。今年から、市担当者の補助として、散歩を兼ねた鹿の捕獲民の巡視を日課にしています。

今後は、健康に留意し、地域の発展と豊かな自然の保護に、微力ながら取り組みたいと思います。

”SHR“

所沢 古山和見

初任者指導教員として半年が過ぎました。最近気づいた”SHR“をお話します。

一つ目の”S“はサプライズ、「びっくり」です。新任の先生はどなたも力があります。学級経営力、授業力等「びっくり」です。

二つ目の”H“はハッピー、「うれしい」です。同僚が昇進したり、新しい職についたりするよううな姿に出会うとき、とても「うれしい」です。

三つ目の”R“はリセット、「やり直す」です。この頃、できないことが増えてきています。でも、何度でも挑戦しやり直すことにしています。

時代は移り変わっても、人を信じ、人を頼り生きていくことにします。

習い事を楽しむ

入間 近藤ます子

退職して七年が経ちます。四年間拠点校指導教員をさせていただき、今は職を離れ自分の時間を楽しみながらのんびり暮らしています。

体力、筋力が衰えないよう愛犬との散歩を日課とし、週三日程体操教室に通い汗を流しています。

また、中断していたお茶の稽古に通い始めお茶の世界を楽しんでいます。稽古場での異年齢の人たちとの交流や茶室の掛物、茶花、数々の茶道具の事等、見たり聞いたり教わったりする全ての事が新鮮です。一つ一つの所作にも意味があり、無駄な物はありません。

「成程、そうなんだ。」と感心したり納得したりすることばかりです。

これからも茶道を通し人との触れ合いを大切に、見聞を広め自分磨きに努めたいと思っています。明日はお稽古の日、楽しみです。

不思議を噛みしめながら

狭山 日吉一博

私は健康のためウォーキングを日課としている。永六輔氏の名言

「街の横町を曲がればもう旅です。」のとおり、それまでは車で通過していただけの道が、歩けば何故か初めての道のように些細な発見も大きな発見に思え、ワクワクしながら「旅」を続けていた。

そんな時、今年の元旦に緊急入院をした。狭心症と診断されたが早い処置で心臓にダメージもなく退院し、何事もなかったかのように生活している。ひょっとしたら死んでいたかもしれないが自分が、今生きていることが本当に不思議に感じられてならない。アニメ「千と千尋の神隠し」の主題歌に「生きている不思議、死んでゆく不思議」という歌詞があるが、私はそんな不思議を噛みしめながらこれからも旅を楽しみたい。

本物に触れる時間を求めて

所沢 齋藤敏男

定年退職後一年間、再任用校長として所沢市立所沢中学校で勤務し、この四月より初任者指導教員として週三日勤務をしています。

先日、拠点校指導教員用の自己評価シートを記入しました。「I 教科等に関する研修、II 学級経営、生徒指導等に関する研修、III 基礎的素養に関する研修等」、さらに、

一番下に研修について書く欄があり、校長の時とは違った自己評価シートを作成しました。

休みが多くなった今年度の自分の生活を考え、「博物館、美術館へ年間十回以上訪れ、本物の持つ素晴らしさに触れ、見識を高める。」と研修欄に記入しました。

休みを有意義に過ごすためにも一回でも多く、そして、ゆつくりと本物に触れる時間を大切にしていきたいと考えています。

感動した本

坂戸 森田峯好

先日素晴らしい本に出会った。

本の題名は『日本の偉人物語』子どもの心に光を灯すという副題がついている。(白駒妃登美著 致知出版社発行)

本の帯に五年生女子の文が載っていた。

「二年生の時ちよつといじめられて仲間はずれにされたりして、『死』を考えたこともありました。でも白駒先生のおかげで今を生きよう、と思えることができました。そして私も命がけで守るものをみつきたいと思いました。」

東井義雄は「教育は、生きざまである」と言っている。日本の歴

史には、綺羅星のごとく偉人がいる。その生きざまを学ぶことが日本人の教育の原点ではないか。かつて私が現場でしてきたことは、一体何だったのだろうか。改めて冷や汗を流す次第である。

押し花ライフ

川越 中山日出子

私の生活の中心に押し花がある。作品作りより、その花を育て集め押している過程が、心癒され私にとっての一番好きな時間である。

インストラクターになって八年、同期の仲間での花の採集、作品展へと年数回交流を深めている。同じ趣味の仲間なので年齢を超え地域を超えての楽しい時間である。

十年以上続いた押し花も川越の作品展への参加、近所のレストランでの展示、多くの旧友が集まり又交流が深まる機会となっている。

この会報「いるま」前号に作品を掲載、県の総会時の作品展にも出品、わが師のお陰である。やはり指導者は大事である。

地域の老人会での作品作り、栗のプレゼント等役立てている。今後も花のある生活で心を癒し交流を深め生活を豊かにしていきたい。

班だより

会に魅力を

入間東部班 湊 貞一

班名を東部から入間東部に變更した。入間の東部にある富士見市、ふじみ野市、三芳町で構成された班である。

今年度は、名誉会員六名を含めた五六名でスタートした。

魅力あるものにしていくためには、若い会員の参加が第一である。入会しても仕事を続けていて大変だが、所属感・仲間意識の高揚に向けて、役員として会議・研修等の企画・運営にあたってもらって



第16回 作品展

いる。

今年度の重点は「会報」の発行と、研修旅行への多くの会員の参加を目指した取り組みである。

会報に関しては、今まで「ひろば」と題して会員の近況報告が中心であったものを内容を充実させていく。タイトルも会員から募る計画である。

また、研修旅行は仕事に就いていても参加し易いものとなる土・日曜を加えたり、日帰りか泊旅行かの検討を加えたりして企画しているところである。

その他、会の主な活動は次のとおりである。

・作品展(十一月)

「彩の国教育の日協賛」として実施し、今年度は十七回目の開催となる。

・俳句クラブ

月一回「ハガキ句会」。また吟行も計画している。

・ゴルフクラブ

年二回のプレー、県退職校長会等のコンペへの参加である。

・懇親会(年三回)

四月の新会員歓迎懇親会、七月の納涼会、十二月の忘年会である。何はともあれ毎回盛り上がるこの会を大事にしている。

毎日が青春!

川越班 加藤健二

川越市退職校長会では、「毎日が青春!」のキャッチフレーズのもと各行事に取り組んでいます。また、今年度は十四名もの新入会員があり、それぞれの取り組みも活気に満ちていくことが期待されます。

【主な取り組み】

四月 総会
七月 理事会・広報発行
八月 研修旅行実行委員会
十月 作品展実行委員会
十一月 研修旅行
十二月 広報発行

三月 作品展・理事会

研修旅行では、加入二年目の会員が企画実行します。日帰りの旅ですが、目的地に実際に赴いて丁寧な企画・提案をして頂いています。昨年度は山梨県の兜造りの山村を訪ねました。

「まだ余り知られていない『兜造りの家』に代表される笛吹市芦川町に到着。山間の道をゆつくりと、そしてのんびりと歩きました。この土地を散策しないと感じとれない、その歴史と伝統を誰もが共有できた時間でもありました」これは事後感想です。

作品展では平素からの取り組みの発表の場に、また来場して頂く



芦川「兜造りの里」にて

る皆さんとの親睦と交流の場にと、加入五年目の会員が実行委員として加わり活躍頂いています。

会場は川越市中央図書館、広い会場に作品をすべて展示できないのが当初からの課題です。それでも「いいですねえ、私にもできるかしら?」「先生お久しぶり、お元気で何よりです。お会いできて嬉しかったです。」などの声が、会場に訪れる皆さんから聞こえてきます。

二年目・五年目の会員が実行委員として加わることで、主体的な係わりが増えていきます。加えて全会員一四〇名の文字通り「毎日が青春!」にしたいものです。



地域の人たちとともに

飯能 大澤 修

「今日は、いい汗をかけたな！ビールが美味しいぞ」

「もう歳だな！身体が動かない」スポーツ大会に参加した人たちが、光る汗をふきながら帰って行く様子です。

私は、定年退職すると同時に、地元飯能の加治体育協会の役員に温かく迎えられました。現職のときも、社会教育・生涯スポーツ等に関わる仕事もしていたので、特に抵抗なく地域の人たちの仲間に入る事ができました。

加治体育協会の主な行事は、春 ソフトボールリーグ戦 飯能新緑ツーデーマーチ



飯能新緑ツーデーマーチ接待所にて

夏 インディアカ、卓球、ペタンク大会、自治会長との懇談会
秋 体育祭、ラケットテニス
冬 奥むさし駅伝、ソフトバレー

ボール、加治一周駅伝大会等各行事を実施するにあたり、何回もの会議を重ねて開催日を迎えます。会議が終わると、誰からともなく「一杯どうだい！」という喜ばしい声がかかります。会議で疲れていた顔がパーッと明るく変わります。やはり、一緒に頑張って取り組んだ仲間は、美味しいお酒などを通して、人と人との関わりが強くなり、結び付きも深まります。そして、地域の大きな力として活動することが出来る「マン・パワー」になっていくことを役員となり改めて感じさせられました。

近頃、子どもたちの命に関わる危機管理が報道されると、その「地域力」が問われます。身近な地域交流であるスポーツ活動を通して、人と人との交流が深まり、風通しのよい安全・安心な地域であれば、体協もさらに盛り上がってくるかと確信しています。

生きがいについて

所沢 深田登志子

先日、雑談の中で出た話だが、『歳をとったら、四Kが大切だ』と言う。四Kとは、①恋心を忘れない②こがね(黄金? 小金?)を持つ③小綺麗にしている④興味や関心を持つ・・・ことだと言う。俗っぽいが、妙に説得力がある。

現在、九七歳の義母と同居をしている。子育て時には、私の代わりに我が家の子どもの達のPTA行事にも参加し、球技大会などで活躍した義母である。運動神経抜群なので今も体は丈夫だが、残念ながら認知症が進んでいる。食べたことも直ぐに忘れ、生家のことは思い出すが、人生の大半を過ごした婚家(深田家)のことは思い出さない。私と二人で何度かハワイ



孫や曾孫に囲まれた義母

に行つたが、全く覚えていない。私たち夫婦と三人で行つた沖縄や上海のことも覚えていない。

瀬戸内寂聴は、義母と同年だが、今も恋愛小説を書き、四K全てを備え、生き生きとしている。脚本家の橋田寿賀子は、九四歳。自転車こぎやバランスボールをし、毎日一キロメートルを泳ぐという。この違いは、一体どこから来るのだろうか？

そんなことから、私の専らの関心ごととは、「今後いかに年齢を重ねるか」である。何時までも自分のことをしっかり認識し、自分の足で歩きたい。先の四Kを備えて、人生を最後まで楽しみたい。

今、夫婦で努力していることは、①体力維持のためのジム通い②ウォーキングや登山目的で、月二回程度の国内旅行(先日熱海に行つたついでに、橋田寿賀子邸まで、足を伸ばしてみた)③バランスの良い食生活等々である。自宅の庭の手入れや、空き家になつて居る秩父の家の庭木の伐採、草刈等も一苦労ではあるが、ボケ防止と割り切つて、夫と共に励んでいる。

現在の私の生きがいは、「健康で楽しく歳を重ね、ピンピンコロリを目標とした日々の努力」とでも言えるだろうか。

作品の窓

俳句

夏三題

日高 横田拾翠
(武志)

池の緑芭蕉待ちある雨蛙

瑠璃蜥蜴尻預けて隠れけり

ギヤマンに灘の生一本冷奴

大 櫻

狭山 橋本莊一

青葉木菟八百年の大櫻

淋しさと楽しさ同居ビール飲む

風鈴の心地良き音や奥座敷

春

飯能 山下利明

教え子の出世を祝ふ初桜

肴にと手折る春菜の匂ひかな

早く来よ親燕待つ巢の騒ぎ

甦 生

狭山 牧 鋒澄
(憲昭)

行者道みそ萩手向く道祖神

解きたる脚絆の紐や星流る

我もぞと僧堂に坐す兜虫

川 柳



老 い

越生 比留間英雄

憧れの女優も老い果てテレビ消す

他人の老い哀れと見るな我も喜寿

老いの坂越えた向こうに何見ゆる

日常から

狭山 坂野文子

減る貯金増えるは不安と年の数

株投資働け年寄りには自助のため

長生きを喜べる国が遠くなり

事務局だより

幹事長 柳 榮治

▼令和元年六月七日、第五五回埼玉県退職校長会定期総会が入間支部が担当して、「ウエスタ川越」を会場に開催されました。

今回は、「オール入間」の方針の下、各班が分掌を分担し、会議を重ね準備を進めてきました。お陰様で盛会裏に終了することができました。これも、ひとえに、各班実施委員の多大なるご尽力と真摯な取り組みの賜物と、心より感謝を申し上げます。

▼総会では、三好勝氏指揮、志水美枝子氏伴奏による国歌、県歌の斉唱。議長に小峯昌一氏、井上堯氏を選出し議事が進められました。

▼アトラクションは、尚美学園大学女子学生による「フルート四重奏」。懐かしい童謡の数々が演奏されました。

▼講演会は、松尾鉄城先生による「明治維新期の歴史と川越・喜多院」の演題で、明治維新期の川越地方に関わり、気になる歴史事象を語っていただきました。

▼美術展には、入間支部会員十四名の多才な作品が寄せられました。

▼懇親会では、多数の参加者を得て和やかに催されました。

編集後記

令和になつての初会報「第三四号」をお届けいたします。

広報委員では長く編集に携われた鈴木文治副会長のご逝去に伴い委員が一部交代となりました。鈴木副会長のご尽力に深く感謝すると共に、ご冥福をお祈りいたします。今年度の委員は左記の通りです。

広報担当副会長 比留間英雄
部長・東部担当 熊本美智子
南部担当 久田 紘治
北部担当 石井 秀明
西部担当 土屋 礼子



井上会長（中央）を囲んで

人間地区退職校長会会報

発行 令和元年九月一日

発行者 会長 井上 清

発行所 川越市並木新町一〇一〇

印刷所 川越印刷株 Tel.049-222-1144